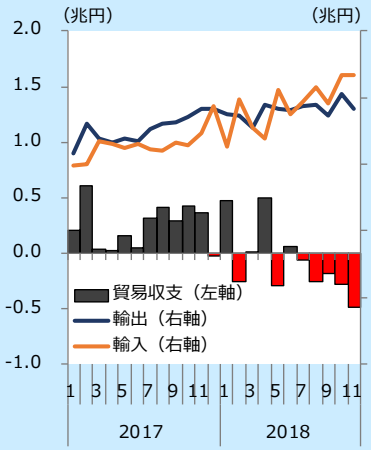
日本：貿易統計（2018年11月）
―実質輸出は2ヶ月ぶりに減少、回復に一服感―

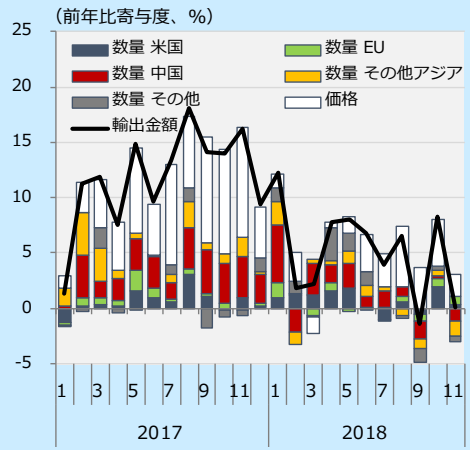
MRI Daily Economic Points
December 20, 2018

貿易収支

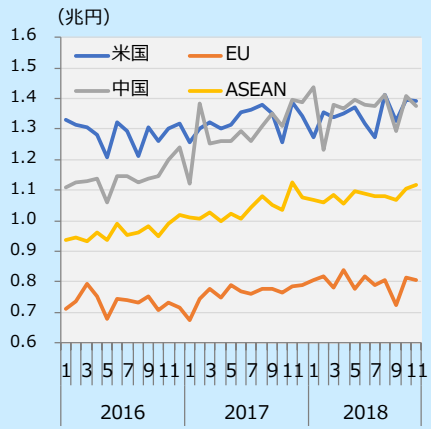


出所：財務省「貿易統計」

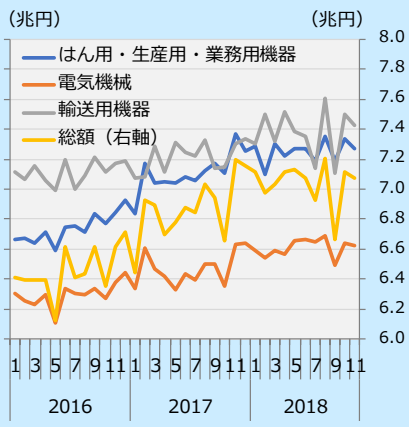
輸出額の寄与度分解



実質輸出：国別



実質輸出：品目別



注：三菱総合研究所の計算による実質・季節調整値。2015年基準。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 18年11月の貿易収支（季節調整値）は、▲4,922億円と、5ヶ月連続で赤字となった。名目輸出は前年比+0.1%と、前月から伸びが大幅に低下した。一方、名目輸入は同+12.5%と、高めの伸びが続いた。
- 11月の輸出金額の内訳をみると、輸出価格は、18年3月以降の円安継続などを背景に、前年比+2.0%と8ヶ月連続で上昇。輸出数量は、中国を含むアジア向けがマイナス寄与となり、同▲2.0%と2ヶ月ぶりに減少した。
- 実質輸出は、前月比▲0.6%の減少となった（三菱総合研究所の計算による実質・季節調整値）。背景には、自然災害からの反動増の一服がある。11月の実質輸出は、自然災害が発生する前の18年前半と同水準であり、18年以降は、17年の増加基調から横ばい圏内の推移へ鈍化している。
- 実質輸出を国別でみると、ASEAN（同+1.2%）で増加したが、米国（同▲0.2%）、中国（同▲2.6%）、EU（同▲1.4%））で減少した。ここ数ヶ月をみると、米国向けは、はん用・生産用・業務用機器が加速し、均してみれば緩やかに拡大。中国向けは、米中貿易摩擦の影響から、はん用・生産用・業務用機器などが弱い動きとなり、全体としては横ばいで推移している。
- 11月の輸入金額の内訳をみると、輸入価格が、円安継続や原油高を背景に、前年比+7.9%と高い伸びとなり、全体を押し上げている。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、海外経済の成長減速などを背景に、回復に一服感がみられる。
- 先行きは、米中貿易摩擦の影響を受ける中国向けや、減税による内需押上げ効果が剥落する米国向けを中心に、19年度にかけて輸出の伸びは一段と鈍化するだろう。
- 下振れリスク要因として、①米中貿易摩擦の激化による米中経済の下振れや、②19年1月以降に開始される予定の日米物品貿易協定（TAG）の交渉の行方、は注意が必要である。

Copyright (c) Mitsubishi Research Institute, Inc.

担当：政策・経済研究センター　田中康就　TEL 03-6705-6087